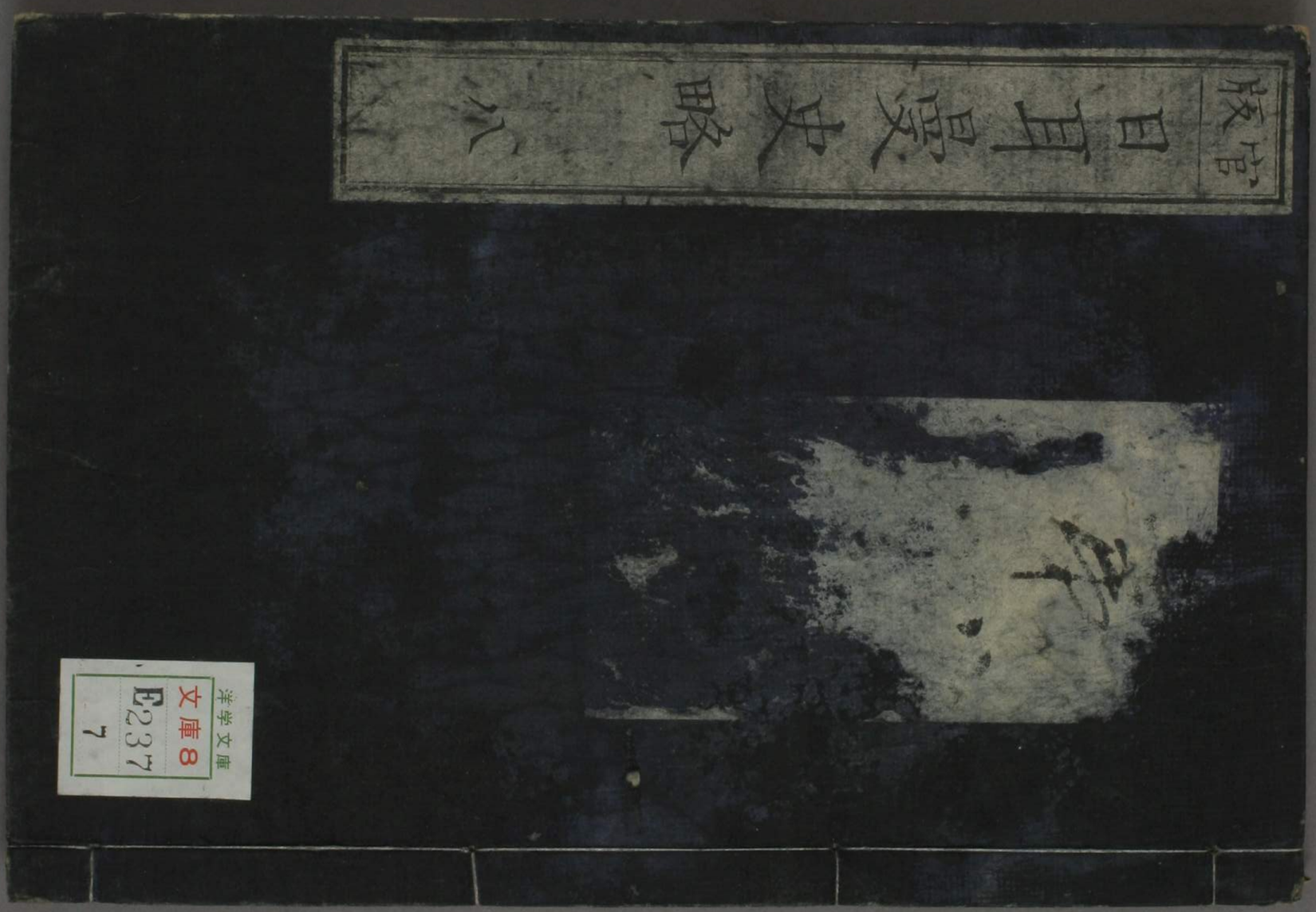

官版

日耳曼史略

八

第八

洋学文庫
文庫8
E237
7

文庫8
E 237
7

長崎中學校文庫印

日耳曼史略巻八目録

第二十六編
メリアゼレーザ殂落ヨリフランシス二世即位ニ至ル事
第二十七編
フランシス二世ノ即位ヨリチルシットノ和議ニ至ル事
第二十八編
チーロルノ擾亂及ヒ其他ノ事件

54 7419

第二十九編　歐羅巴ノ鎮静
第三十編　日耳曼ノ事

東京大學圖書

日耳曼史畧巻八

後藤達三　譯

第二十六編

メリアゼレーサ殂落ヨリ、フランシス二世即位ニ至ル事（紀元千七百八十年ヨリ千七百九十二年ニ至ル）

問皇帝ジヨセフノ品性ハ、何ナルヤ

答人ノ能ク良好ノ意思ヲ體シナカラ、自己ノ良キ意見ヲハ成就スルニ於テ、之ヲ決裁スル

ノ才ナク、竟ニ其事ヲ果サヽル者アリ、皇帝ジヨヒフハ、即此ノ如キ者ノ一人タリ、其國民ノ利益ノ為メ、正サニ企テタル籌畫、實ニ少ナカラサリシカ其趣旨ヲ達スルニ至ル迄ハ多ク時日ヲ經ルノ事業ナルヲ以テ其結果ヲ見ル久耐ノ心ナキニ由テ、斯ル良圖モ摠テ空ク廢レタリ

帝ノ籌畫ニテ實ニ成功シタルハ、其頃墺地利亜、數部ニ於テ有ル所ノ農夫ヲ免シテ人ノ奴隷タル事無ラシメタル事ナリ

問當時尚封建制度ノ行レテアリシハ、何地ナルヤ、

答メリアゼレーザ已ニシテ下等ノ者ノ景況ヲ多ク改革セリ、但暴虐ノ古風アル恒加利并ニ波希米亜（ホヘミヤ）ノ二國ニハ未タ封建制度行レケリ、

尼達蘭（ニーデルランド）チロル及ヒ自由諸都府ニ屬スル地ノ外、墺國諸領ハ封建ノ領地タリ、

問墺波二國ノ中ニ在ル守業者（ヂモチビト）ヨリ、如何ナル用役ヲ要シタルヤ

答二國ノ農夫全ク自由ナリシカ、地頭ヨリ田莊ヲ受領シ居ル者ハ、産物ノ十分ノ一ヲ地頭ヘ納メ、一歳中凡ソ九十日ノ間、男一人馬二疋ヲ供給シ、且ツ其他多クノ重税ヲ出サシメラレタリ、

波國ニ於テハ守業者十分一ノ税ヲ出サヽルト雖モ、一ノ給料ヲ受ケス、地頭ノ為メニ、年中日數百六十日ノ間、劇シキ勞動ヲ做サヽルヲ得ス、殆ト半年之カ為メニ費ユルニ因テ、各甚タ窮困ニ至レリ、

問皇帝斯ル窮民ノ景況ヲ更ニ善クセントテ、如何ナル主意アリシヤ

答皇帝ノ主意トスル所ハ、一旦ニ斯ル租税ヲ廢棄スルニアリ、如此ナレハ、府人ノ田莊ヲ出賃シテ居住シタル者共ノ如ク、守業ノ農夫モ、亦自由ニナサレタル可シ

問皇帝ノ設圖ノ立タサリシハ、何故ナルヤ

答土地ノ所有人ヘ、些少ノ償ヲモナサス、帝之ニ心ヲ留メス、其入益ノ大本ヲ褫ハントセシハ、原ヨリ正シキ事ニ非サル故、縱令ヒ帝其世襲ノ諸領中ニハ强テ改革ヲ施スト雖ドモ、敢テ之ヲ恒波二國ニ推シ及サス、又自由ニナサレタル農夫モ、墺國ニ於ケル解放ヨリシテ、心ニ期シタル總テノ利益ヲモ得ス、是ニ由テ地頭タル者ハ守業者ヨリ収取スル所ノ地租ヲ常ニ皇帝ニ納ム、若シ守業者之ヲ納ル事能サレハ、其缺乏ノタメニ、自ラ其責ニ任スルナリ、

此改革ノ新例ニ依テ、前ノ地租ハ農夫ヨリ直チニ朝廷ノ収税者エ納ル事トナリ、且帝巨萬ノ費用アル時ハ、夫ノ封建租税ノ如ク、苛政重租ヲ行ヒ嚴シク聚斂ヲナシタリ

問皇帝ジヨセフ宗旨ニ就キ、如何ナル改革ヲナシタルヤ、

答前ニ次ク改革ニテ、前ヨリモ多ク行ハレタ

ル改正ハ唯異リタル宗旨ノ原理ヲ告諭スル者ノ許多ノ權利ヲ均一ニシタル事ナリ之ヲナスニ、皇帝ハ舊教者ナリシカトモ、人タル者ハ、良心ノ自由ニ（良心ノ好ム所ニ從フヲ云フ）堪ユ可キ事ノ理ヲ考フルニ足ルノ量アリトシテ、耶蘇宗徒ノ總門派ニ、禮拜堂ヲ建立スルノ允許ヲ與ヘ、且拜禮ノ式ニ至テハ其派ノ選フ所ニ從ヒタリ、

問猶太宗徒ノ形狀當世如何ニ更好ナリシヤ、

答皇帝又猶太宗徒ニ允許スルニ、摠テ自由都府ノ内ニテ、商賣製造ヲナシ、且田莊ヲ有スル事其子息ヲ教授セシメンカ為メ大小學校ヘ入ルノ允許ヲ與ヘ、且ツ帝猶太宗信奉ノ者ヘ對シ是迄一般世人ノ知ル所タル不公平ノ事ヲハ、總テ遏絶セントセリ、

問皇帝ノ奉スル所ハ何宗ナルヤ、

答宗旨ノ事ニ付キ、帝ノ所為ヲ見ルニ、恐クハ帝ノ實ニ舊教者タルヲ疑フ可シ、其故ハ帝羅馬宗ニ關スル許多ノ禮式ヲ專ラ廢セントシ

且ッ數多ナル男女脩道院ヲ壓止セシニヨレリ只ユルシユリンスト稱スル一社ノ脩道院ノミハ、女人ノ教導ノタメ殘シ置ト雖モ其社友ノ數夥シク減少セリ、

問此廢院ヲハ何ノ需用ニナシ、且ッ其社友ハ如何ナリタルヤ、

答此廢院ヲハ、病院兵舎學校ノ需用トナシ其事實ニ急遽ニシテ別ニ男女脩道者ヲ擁護スル手當ナキ故、社友多ク至極ノ患難ニ陷リタリ、

問脩道院廢セラレ其數幾箇ニナリタルヤ

答メリアゼレーザ殂落ノ頃、墺國諸領ノ中ニ存在シタル脩道院ノ數二千ナリシガ、當時ニ殘レルハ、只七百ナリ、將タ之ガ社友トテモ今僅カ三千人ニ越ヘサリシガ、女皇ノ時代ニハ、總計三万六千人アリ、

問廢院ニ屬スル歲稅ヲ何ニ用ヒタルヤ、

答帝脩道院ニ屬スル土地ノ歲租ヲ用ヒテ墺

國ノ各部ニ、新規ノ道路、并ニ水道ヲ造リ、又醫學外科術植物學窮理學ノ學校ヲ建テ、且ツ其中ノ若干ヲ以テ器械ヲ用フル諸製造ヲ更好スルヿノ需用トナセリ、然ルニ帝ハ多年隱遁ニ間ヲ消スル者勞動ノ生計ヲ營ミ難ク、且ツ自ラ供給スルノ事業ヲ、一ツモ知ラサルトハ、毫モ思ハス、乃チ掠奪物ノ部分ヲ以テ、既ニ夥シク困難ニ陥リタル、不幸ノ男女輩ヲ救助スルニ充テサリシハ、歎息スヘキ事ナリ

問 恒加利ノ互市、如何ニ增シタルヤ、

荅 ジヨセフ二世、互市ヲ勸進セシ事業ノ中土耳其ノ國王ト條約ヲナシ、恒國ノ穀物葡萄酒ヲハ、ダニウブ河ニ由テ、土耳其領ヲ通リ、黒海ニ送リ、其ヨリダルダ子ルス（土國ノ海峡）ニ依テ、地中海マテ送ルヘキヿトナレリ、

偖是迄恒國ハ、多産冨饒ノ國ナリシカトモ、此國ノ船ハダニウブヲ下リ墺國所領ノ分界以外エ運漕スルヿ能ハサルユヘ、其産物ヲ遠方

ヘ輸出スル方法ナク、國人ノ利益殊ニ僅少ナリシカ、當時船路ノ自由ヲ得シヨリ、恒人甚タ大ナル利益ヲ得尚其船路ノ禁ノ廢弛セシ以來恒人ノ互市開ケ穀物葡萄酒ヲ積メル許多ノ船ヲ、ゼノヲア（以國）及ヒマルセールス（佛國）ニ漕出セリ、

問恒人ノ不平ヲ醸シタルハ何ナルヤ

荅恒人今ニ至テ廣キ貿易ノ利益ヲ漸ク知ルニ當テ、ジヨセフ土耳其ト戰爭ニ合セン事ヲ俄羅斯女皇ヨリ勸説セラレタルユヘ、帝ノ曩ニ畧大成ニ至ル諸凡善事モ、自己ノ輕浮不愼ニヨリテ、竟ニ廢タレリ、尤モ土耳其ノ戰爭ハ、久シク續カサリシト雖モ、此戰ヒヨリ恒人ノ不服ヲ釀シ、加之、既ニ帝即位ノ時、恒人ニ其國人ノ擁護ヲ約シタル公義ヲ帝自ラ侵犯シタルニ由テ、尚モ其怨恨ヲ深ウセリ、

問尼達蘭ニ一揆ノ起リシハ、何故ナルヤ、

荅土耳其ノ戰ヒ終リシヨリ幾ナラス、曩ニ帝

日國諸領ニ行ヒタル宗旨ノ改革ヲハ尼達蘭ニ推シ及ホセシカ、此事却テ不幸ヲ招キ、是ヨリシテ一般ノ謀叛起リ、竟ニ斯ル國々帝國ト離レテ其事去レリ、原是尼達蘭ノ民皆新法ヲ惡ミ各々自主ノ權ヲ保護センタメ師ヲ起シタレハナリ、

問當時尼達蘭ニ於テ、政治ノ景況如何ナルヤ、

答墺國ノ尼達蘭ハ、都合九州ニシテ、一州ゴトニ各異ノ主權アリテ各々一己ノ政度ヲ維持セリ、九州各々領主アリテ之ヲ支配スト雖モ、墺家ノ主ヲ已等ノ頭目トナシ居タリ、

尼國（ニイゼルランド）ト其大イサヲ等ウスル國ニテ尼國ヨリ冨且ツ衆多ナル人民アルモノナシ、帝斯ル冨有ノ所領ヨリ得ル所ノ入益甚タ夥多ナリシニ、其國ノ常規及ヒ風習ヲ阻碍セシヲ以テ、此國ヲ失フノ危殆ニ至リシハ、甚タ不賢ノ所為ト謂ツ可キナリ

問尼國ノ謀叛ヲ導キタル所為ハ何ナリシヤ

答帝租税ノ情勢ヲ變易シ、及ヒ教育ノ方法ヲ變革シ、及ヒ僧侶ノ特恩ヲ褫ヒ、勅旨ニ從ハサル數多ノ僧侶ヲ禁錮スル等ノ事ニ由テ竟ニ一大事件トハナレリ、

問謀叛如何ニ成就セシヤ

答帝前ノ所為ニ加フルニ尚残暴ノ所行少ナカラス、是ニ由テ尼國ノ諸部互ヒノ擁護ノタメニ同盟シテ斯ル謀叛ニ及ヒタリ、然ルニ帝ハ自ラ此諸州ヲ亡ホスノ危險ニ至リシト見シ時、已ニ人民ノ不服ナル所置ヲハ、凡テ廢棄ス可キノ詔旨ヲ下タセシカトモ、此事遲々ニテ悔レトモ及ハス、既ニ尼國ハ佛國ト普國（フロシヤ）トニ援ケラレ、自ラ獨立ノ共和國トナリタリ、

問此事件ノ年代ヲ擧ケヨ、

答尼國ノ大變ハ、紀元千七百八十九年ニ作リタリ、

問尼國大變ニ由リ、帝ノ躬如何アリシヤ、

答皇帝病甚タ厚ク、自ラ尼國ノ大變ヲ見ルヨ

り、大ニ之ヲ憂ヒ、其後速ニ殂シタリ、

問當代ニ於テ、何ノ製造場、繁昌セシヤ、

答當時日國ニ於テ木綿絨布玻璃ノ製造場ヲ設立セリ、

皇帝ジヨセフ在位惟僅カ十歳、帝自ラ已ノ墓誌ヲ書セシト云ス、

問誰カジヨセフニ相續シタルヤ、

答帝ノ弟レヲポルド嗣テ立ツ、之ヲレヲポルド二世ト云フ、初メタスケニイノ太公トシテ、

二十五年、此國ヲ支配シ、日國ノ統治、甚タ少時間ナルユヘ、日耳曼皇帝ノ名號ヨリハ、却テタスケニイ公ヲ以テ、世ニ多ク知ラレケリ

問レヲポルド即位ノ時日國ノ形勢ハ如何アリシヤ

答レヲポルド嗣立ノ時、墺地利亜家許多ノ危難ニ罹レリ、波人（ボヘミヤ）墺人ハ、前帝ヨリ負ハセラレタル租税ニ於テ其意甚タ悦ハス、恒人ハ将ニ離叛セントスル用意アリ、有力ノ貴族ハ、是迄ノ

如ク墺家皇帝ノ管轄ヲ受ケスシテ自己ノ君主ヲ選フ往昔ノ特權ヲハ、固守スル事ヲ企テタリ、

問當時佛人ノ墺人ニ敵シタルハ、何故ナルヤ、

答既ニ佛國ニ起リタル革命ノ亂ハ、皇帝レヲポルドニ對シ、別ノ一難事トナレリ、其故ハメリアゼレーザノ末女ニテ、佛國ノ不幸ナル王妃メリイアントイ子ツト（佛王路易十六世ノ王妃ニシテ、同國激徒ノタメニ弑セラル）ハ、レヲポルドノ妹ナレハナリ、且ツ一揆黨ノ徒ハ王妃國王路易ヲシテ國民ヲ禍患ニ陷ラシメタル者ノ如ク思ヒタルユヘ、マタ墺人ヲ惡ミ嫌ヘリ、

問恒加利ニ於テ治安如何ニ回復セシヤ

答レヲポルドハ、兄弟ヨセフヨリ賢ナル人君ニシテ、帝ノ恒人ヲ所置スルノ賢ナルニ由テ、同國ニ治安ヲ回復シテ、之カ國王トナリタリ

問皇帝恒人ヲ利セントテ、如何ナル計策ヲ思ヒ

付キタルヤ、

答帝常ニ恒國農夫ノ属隷ヲ自由ニシ、之ニ土地所有ノ權ヲ與ヘン事ヲ甚タ好メリ、故ニ若シ帝ノ在世久シケレハ、正ニ此事ヲ擧行シタルナランサレト富民貴族ハ農夫ト異リ、此改革ニ就テ其利ヲ亡フ事ナルユヘ、帝强テ之ヲ行ヒ、彼等ヲ憤怒セシムルモ、決シテ賢キ所為トモ思ハサルユヘ、舒々ニ立意ヲ達ス可キ事ニ決心セリ

問皇帝ノ前事ニ次ク目的ハ、何ニシテ、其成功如何アリシヤ、

答帝恒人ヲ和平スルニ於テ成功シタル後、速ニ尼達蘭回復ノ事ニ注思シ、半ハ議定ト、半ハ敵對ノ方法（テタテ）ニ由テ、此モ亦其功ヲ遂ケタリシカ、尼人ハ後久シク日國ニ附屬シタル者ニハアラス、

此間ニ佛國ノ變亂益熾ニナリ、帝ハ其妹ナル同國ノ王妃ノ事ヲ甚タ憂慮シ、并ニ一揆ノ常

ニ廢棄セントセル佛國君主ノ權ヲ保護セン事ヲ欲シ、國王路易十六世ヲ助クル良圖ヲ議スルタメニ、普魯士國王ト會合シ、若シ歐洲諸王ノ同意ノ者アラハ、佛國ノ共和黨征伐ノ軍勢ヲ差向ン事ヲ約セリ、然ルニ英蘭（エングランド）幷ニ西班牙ノ國王ハ、何レモ此事ニ關セサル如ク見ヘテ、別ニ決定ノ策ヲゾナサヽリケリ、

問 レオポルドノ在位、幾何ナルヤ、

答 レオポルド帝位ニ在ルノ間、只僅カニ二年ニテ遂ニ殂シタリ、皇后メリアゼレーザ（西班牙王査尓斯三世ノ女ナリ）良人ノ死ヲ深ク歎キ、之カ為ニ病ヲ發シ、只一二箇月ノ中ニ、同ク黄泉ニ赴キタリ、

問 誰カレオポルドニ相續シタルヤ、

答 レオポルドノ男フランシス嗣テ立ツ、之ヲフランシス二世ト稱ス是迄選擧ニ頼テ立テラレタル日國皇帝ノ最モ終リノ者ニシテ、墺地利亜皇帝ノ名號ヲ取リタル最初ノ者タリ、

第二十七編

フランシス二世ノ即位ヨリチルシットノ和議ニ至ル事（紀元千七百九十二年ヨリ同千八百七年ニ至ル）

問新帝ノ佛國ト戰爭ニ及ヒシハ、何故ナルヤ、

答近頃新帝フランシスハ、佛國ノ共和黨ノ既ニ佛國ニ行ヒタル如ク、アルサス并ニロルレインノ諸州ニ於テ封建ニ關スル規則ト風習トヲ都テ廢棄シタルヲ以テ、之ト戰爭ニ及ヘリ此國々ハ、一旦佛國ニ讓ラレシカ、當時ハ日人之ニ居住シ且ツ其領主モ亦日人ナリ、是ヲ以テ此國々ニ佛人ノ新法ヲ推及スルノ理ナキ由ヲ、墺國政府ヨリシテ辨駁ニ及ヒタリ

問佛軍初メノ勝利、何ナルヤ、

答此趣意ヨリ起リタル爭ヒヨリシテ、佛人墺國皇帝ニ叛キ、戰爭ヲ布告セントテ國會ヲ催シ而メ其軍尼達蘭ニ侵入シ遂ニ墺普ノ軍ヲ敗リテ尼國ヲ據有セリ

問佛軍ノ勝利如何ニ續キタルヤ

荅其後佛軍日國マテ進擊ニ及ヒ、暫時ニ墺國諸領ノ各部ニ於テ烈シキ戰爭アリ
是迄屢〻佛軍ニ苦メラレタルパラチ子ート、バラチインノ領地再ヒ戰闘流血ノ巷トナリ、敵兵速カニ數多ノ皇都ヲ割據シ、尚且ツトレエブス及ビコロンヲモ獲タリ、

問墺國ノ軍勢ヲ誰カ指揮シタルヤ

答此時墺軍ノ總督ハ、皇帝ノ兄弟ナルアルチジユック查尔斯ニ任セラレ、且ツ此戰爭ニ關シタル日國諸侯ノ中ニ、サクセコブルグ王ウルテンベルグ公及ヒプロンスウヰツキ公等アツカレリ、

問伊太利ニ軍ヲ及シタルハ、誰ニシテ、其成功ハ如何アリシヤ、

荅此戰爭ノ間、既ニ拿破侖（ナポレオン）ノ總ル所ノ大軍伊太利ニ攻入リ、此國ニ在ル墺國ノ諸領ヲ悉ク據有セリ、

問拿破侖其他何州ニ入攻セシヤ、

答拿破侖ハ前ノ勝利ニ、氣ヲ得テ、勝チ誇リタル軍勢ヲ率ヒテ、亞カ伯（アルパン）山ヲ越ヘテ、リンジヤスチリヤカルニオラノ公國、及ヒチロルノ山國ニ入リ、烈シク放火擊破セリ」、但佛國ノ兵卒殘忍ニシテ、強奪ヲ好ム者ナルユヘ、老幼ヲ選ハス、且ッ扶助ナキ婦女ヲ聊モ顧ミサルユヘ、貧窮ナル農夫、艱苦ニ陷リシ事實ニ枚擧ニ勝ヘサリシナリ、

問治安ノ時ヲ如何ニシテ得タルヤ、

答斯クテチロルノ勇民、一體ニ奮起シ、王師ノ黨ト合シテ、佛軍ヲ國外ニ追却セリ、其後直ニ拿破侖ハ皇帝ニ和議ヲ宣言セシカ、帝其條約書ニ款印シ、多分ノ領地ヲ亡フテ、一時ノ平穩ヲ得タリ」、此條約ヲカムポーホルミヲ（以國）ノ條約ト稱ス、

問カンポーホルミヲノ條約ノ詞章ハ如何ナルヤ、

答拿破侖ヨリ皇帝ニ諭告シ帝ノ承認シタル條約ノ詞章ハ他ナシ、皇帝尼達蘭及ヒ以太利等ノ日耳曼領ヲ佛人ニ讓與シ、且ツ萊因河ヲ以テ、佛日ノ境界ト為ス可キトノ事ナリ、如此ナレハ、日國ノ廣濶ヲ減シ佛國ヲ增スヿ著シ、因テ斯ル莫大ノ損失ノ償ヒトシテ、フランシスブェ子チアン諸國ヲ受得タリシカトモ是ハ已ニ帝ノ分タレタル廣大貴重ノ諸領ノ代リニハ、甚タ乏シキ交易ナリ、

問其項何レノ國王ノ死シタルヤ

答當時普魯士國王非哩特維廉（フレデリツキウヰルレム）死シタリ、普王先是五年、尼達蘭ノ佛人ニ攻メ取ラレシ以後佛人ト和シ、中立シタルユエ、或時ノ間ハ佛日ノ戦爭ニ少シモ關セサリシナリ、

問カンポー、ホルミヲノ和約、如何ニ破レシヤ、

答カンポー、ホルミヲノ和睦久シク續カス、其故ハ拿破侖埃及（エジプト）出陣ノ間、墺人ハ自ラ往キニカンポーホルミヲノ條約ニテ、帝ノ已ムヲ得

ス譲與シタルミラ子ーセ、其他多クノ諸領ヲ再ヒ所有シタレハナリ、

問拿破侖此事ヲ、如何ニ所置シタルヤ、

答拿破侖埃及ヨリ軍ヲ歸シ、墺人再ヒ以國ニ在リシヲ見シヨリ、少シモ猶豫ナク、墺人ヲ驅逐シテ根據ヲ絶ツノ用意ヲ為シ、於是テ亞力伯山越シノ高名ナル出征ニテ、マレンゴノ大戦ニ勝利ヲ得、墺兵隊ハ死傷甚タ多ク、已ムヲ得ス巴華利亞ニ退去セリ、

問ルンブェル（佛國）ノ條約ハ何ナルヤ、

答皇帝フランシスト拿破侖ト、新規ノ條約ヲナシ、之ヲルンブェルノ條約ト稱ス、是ニ由テフランシスハ、尚モ日國諸領ノ多分ト、并ニ拿破侖不在ノ間ニ以太利ニ於テ已ニ一旦回復シタル、總テノ國々ヲ餘儀ナク譲與スル事トナリタリ、

人民再和ヲ悦フヿ限リナシト雖𪜈、拿破侖ノ所為ヲ見ルニ其目的ハ和睦ヲ確守スルニ非

ス自ラ歐洲ノ全主トナラン事ナルニハ、此和約久シク續カサルニ必セリ

問英國政府佛人ノ英領エ侵入スルヲ防ク為ニ如何ナル所置ニ及ヒタルヤ、

答ルシブェルノ條約ノ後、間モナク、拿破侖英國政府ト隙ヲ生シ、戰ヒヲ布告シタルニ由テ、亜諾威尓（ノーブル）ノ英領防禦ノ為メ英國ノ軍隊、和蘭ニ送ラレ、且ツ亜諾威尓境界ノ防禦トシテ、亦强勇ナル一軍ヲハ聚メラレタリ、

問佛人、英國トノ條約ヲ如何ニ破リタルヤ

答日耳曼以北ノ諸國ハ、都テ局外中立ノモノタル可キ事、已ニ約定セラレタル故、斯ル國々ニ入攻スルハ、佛國政府ノ甚タ體面ナキ事タリ、然ルニ佛軍此約ヲ破リ、紀元千八百三年ニ亜諾威尓ノ全國ヲ伐ツテ之ヲ獲且ツ英王ゼヽオルジ三世其男ケンブリッジ公ノ居ニ充テントテ鉅萬ノ金ヲ以テ華美ニ修飾シタル主選者ノ宮殿ヲハ、佛將拿破侖已カ住居トナシタ

ル故英人并ニ亜人ノ憤怒、實ニ散スルニ地ナカリシナリ、

問佛人亜諾威尓ノ占據ニ由テ、貿易ニ如何ナル利害アリシヤ

答佛人、亜諾威尓ニ占據セシヨリ、エルブ并ニウヱセルノ両河ヲ總轄スルノ權ヲ執レリ、故ニ此河ヲ上下スル船ヲハ隨意ニ停メ、又ハ用銀ヲモ拂ハシメタルユヘ、自由商社ノ都邑、殊ニハンブルグノ商人ニハ此事患難トナリ、尚且ツ大英國ノ互市ニモ大害トナリタリ、ハンブルグ并ニブレメンノ商人箇様ニシテ鉅萬ノ錢財ヲ勒索セラレ、其外ニモ租税ヲ出サシメラレタルユヘ、至極ノ患難ニ至レリ加之英國政府ハハンブルグト其國ノ貿易ノ阻リタルヲ憤リ前ノ二大河ノ口ヲ圍ミ、如何ナル船ニテモ通行ノナリカタカランカ為メ數多ノ船隊ヲ進發シタレバハンブルグ及ヒブレメンノ多クノ商人全ク衰微セリ、是以ハンブ

ルグノ禍患甚タ大ニシテ、三十人ノ大府人僅カ一週間ニ自殺セリ、之ヲ以テ府民絶望ノ景况ノ哀シキ證トス可キナリ

佛人亜諾威尓ニ占據スルノ一事ハ佛人ノ局外中立諸國ノ事ニ與聞セサルトノ約ヲ破リシ唯一例ノミナラン尚且ツ新ニ日耳曼ノ自由ヲ侵セシヿモ亦條約ニ於ル信義ノ薄ヲ證スヘシ、

問　エンイン侯ハ誰ニシテ、其運命ハ、如何ナルヤ

答　巴勒ニ於テ保那巴ヲ暗殺セントスル企アリ、而シテブールボン家ノ少公子エンイン侯此謀ニ參與シタルトノ疑念カヽリシ、此賢公子ハベデンノ侯國内ナルエランヘムノ城ニ住メリ、其處ニテ佛ノ騎兵ニ捕ヘラレ、巴勒ヨリ殆ト四里隔リタルビンセ子スノ城ニ送ラレテ、其夜軍務官ノ命ニ依テ、死罪ニ決シ、而シテ翌朝早ク城溝ノ中ニテ、銃丸ヲ以テ射殺サレタリ、然レトモ此侯ノ罪科ハ、分明ナ

ラサリシ、

歐羅巴ノ諸王、皆一等議官ノ專横不正ノ所行ヲ憤怒ス、一等議官ハ即チ保那巴ノ官名ナリ、就中魯帝ハ日國ノ諸侯ヲ合從セシメ、保那巴ノ其獨立ニ逼迫スルヲ防カントテ、盡力セリ、然レトモ不幸ニシテ、此諸侯ノ中ニテ、至强ノ一人、巴華利亜ノ主選者マキシミリヤンハ、佛ト相結ヒ其力敵セスシテ、恐怖シタル劣弱ノ諸侯ヲ侵侮センヿヲ約シタリ、

問ヱンイン侯ノ死ニ次イテ起リシ二ノ重大事件ハ、何ナルヤ、

答二ノ大事件、ヱンイン侯ノ死ニ次イテ間モナク起レリ、其一ハ保那巴、自立シテ佛國ノ帝ト為リシナリ、其二ハフランシス二世日耳曼ノ帝號ヲ廢シテ墺地利亜帝ト稱スル子孫相傳ノ帝號ヲ取リケリ、

問此事件ハ、何時起リシヤ、

答紀元千八百四年ニ起リタル此第二ノ變革

ニ因テ、甲利泰甫（シャルレマン）ノ時ヨリ存立シタル日耳曼帝國ハ廢滅シタリ

戦ヲ再興セントノ用意ハ、雙方ニ於テ此時方ニ最中ナリシ、

問戦ノ再發ハ、如何ナルヤ、

荅フランシスハ、墺地利亞ニ於テ、新ニ兵ヲ募リ、紀元千八百五年ノ晩ニ近キテ、大軍ヲ集メ得テ、コレヲ三分隊ニ分チ、一分隊ヲ遣テ、巴華利亞ノ首府ミユーニッチヲ圍ミ、苐二ノ分隊ヲ遣テ以太利ヨリ佛人ヲ追ヒ出サントシ、苐三ノ分隊ヲシテ、チーロルノ國ヲ占據セシメリ、保那巴ハ、策ヲ運ラスコト、常ニ神速ナレハ、忽チ精兵良将ヲ率ヒテ、日耳曼ニ現レタリ、

問保那巴ノ最モ髙名ノ将帥ハ誰ナルヤ、

荅諸将ノ中ニテ、瑞典ノ前ノ王ベルナドッテ及ヒマルシヤルスールトハ、最モ髙名ノ将ナリ

問佛帝ノ成功ハ、如何ナルヤ、

荅拿破侖ノ兵ハ、成功常ノ如ク、向フ所風靡セ

サルナク、遂ニ維也納ニ達ス、更ニ些少ノ敵兵ニ遇フヿナク、祝勝ヲ為シテ入レリ、是ヨリ帝ハ其親屬ヲ携ヘテ、モラビヤナルブリユンニ退キ、而シテ貴族幷ニ重キ國人ハ、大半皆恒加利ニ遁レタルカユヘナリ、

其間ニ佛軍ノ別隊ハ、チーロルニ入リタリ、此地方ノ墺兵ノ總督アルチジユーク、ジヨンハ戦フヿハ敗軍スルヿ必定ナレハ寧ロ兵ヲ退クルニ若カスト考ヘタルユヘニ、此地ハ戦ハスシテ佛軍ニ渡サレタリ、

問ヲーストルリッズノ戦、幷ニ其結果ハ如何ナルヤ、

荅此危急ノトキニ及テ、魯ノ新軍ニ帝阿歴山大（アレキサンドル）親ラ将トシテ勢ヲ喪ヒタル墺兵ノ應援トシテ来レリ、コヽニ於テ、フランシス再ヒ其兵ヲ集メテ、ヲーストルリッズノ原ニ於テ、佛軍ヲ撃ツ、此時保那巴再ヒ勝利ヲ得タリ、之ニ依テ、日耳曼ノ全國ハ、保那巴ノ號令ニ遵ヘリ、

問　此戰ニ於テ、珍ラシキ事ハ何ナルヤ、

答　帝號ヲ得タル歐洲ノ國君ノミ、親ラヨーストルリッズノ戰ニ臨ミシヿハ、一奇事ナリ、即チ墺地利亞ノフランシス、魯西亞ノ阿歷山大（アレキサンドル）佛蘭西ノ拿破侖ナリ、

問　此時ニ新王國ノ歐洲中ニ興リシハ、如何ナリシヤ、

答　一ノ甚シキ重大ノ變革、方ニ日耳曼中ニ起レリ、其所以ハフランシスハ强敵ノ意ノ欲スル所ノ條約ニ從ヒ、和ヲ爲サヽルヲ得ス、然レ𪜈此ハ果シテ容易ノ事ニアラサルヿ、想像スヘシ、一ノ領分ヲ以太利ニ渡シ、又一ノ領分ヲ巴華利亞及ヒウルテムブルグニ渡シ、コノ二ヲ以テ佛帝ハ王國ヲ建テケリ、其時ヨリシテ、巴華利亞ノ王、及ヒウルテムブルクノ王アリ、此等ノ諸侯ハ、前ニ主選者ナリシカ、墺地利亞ノ帝國選擧ヲ止メテ、子孫相傳トナリシ以來主選者ノ稱、永ク廢絶シタリ、

問ウルテムブルグノ新王ハ、誰ナルヤ

答ウルテムブルグノ新王ジヨールジ三世ノ長女ヲ娶リタレハ英ノ當時ノ女王ニハ、叔父ナリ、而シテ此新王ハ、公私トモニ、尊大暴虐ノ人ナリシト記サレケリ、

問日耳曼諸國ノ中、何レカ此等ノ新王國ニ譲ラレ、而シテ如何ナル領地カ、墺地利亜ノ帝ニ残サルヽヤ、

答墺帝ノ此二ノ新王國ニ渡サレタル諸國ノ中ニ、ヲーグスブルグノ戸口稠密ナル繁榮ノ都チーロル、并ニシユエビヤニアル墺國ノ所領地アリ、故ニ墺帝ノ曽テ一度得タル廣大ノ帝國ノ内ニテ、残ル所ハ、啻波希米亜及ヒ恒加利ト、墺地利亜ノ世領ニ甚タ僅加フルノミナリ、

問莱因河ノ盟約ハ何ナルヤ、

答莱因河ノ側ニ領地ヲ有スル日國ノ諸侯數多始メテ共ニ連結シ日國ノ他ノ諸侯ヲ離レテ別ニ一體ヲ成シ佛帝ヲ主長ナル守護者ト

シテ奉セシヿハフランシスノ墺帝ト稱セシ時ノ事ナリシ」此連合ヲ名ケテ萊因河ノ盟約ト云フ、

問盟約諸國ノ務ハ何ナルヤ

答此盟約ニ入リシ諸侯ハ實ニ數多ニシテ、保那巴ハ之ガ盟主タリ」諸侯ハ保那巴ニ合カセントテ、兵卒ヲ以テ給シタレバ、諸事一トシテ保那巴ニ屬セサルヿナシ、此諸侯ノ地位ハ決シテ他ヨリ羨ム可キモノニ非スト覺ヘシホトナリケリ、然レトモ大半ハ、必ス佛軍ノ侵掠ヲ免レンカ為ニ、此盟ニ連合スルニ至レリ、

問フーストルリッズノ戰ノ後保那巴ノ暴虐ヲ現スヿ如何ナルヤ

答拿破侖ノ專横ノ證ハフーストルリッズノ戰ノ後ニテ巴華利亞ノ新王ノ信實ヲ得ンカ為メニ己ノ女皇ジヨセヒンノ先夫ノ子イユーシエン、ビユーハルノアスノ婦ニ新王ノ女ヲ請ヘルトキニ現ハレタリ而シテ假令ヒコノ小

女ハ十分ニ戀慕シタルベデンノ賢公子ト方ニ婚姻ノ期アリト雖モ强テ其戀人ヲ絕チ相識ニアラヌ人ニ嫁セシメラレシ、幸ニシテイユーシエンハ可憐公子ナリ謂ラク必拔群ノ良人ナラント然レドモ保那巴ハ强テ此妃ヲ公子ノ新婦トナセシトキハ此事ハ意ニ係ケサリシナリ

問普魯士王ハ、其領地ヲ保安スルカ為ニ、如何様ニ勉メラルヽヤ、

答此間始終普王ハ、愼テ此戰爭ニ參與スルヿヲ避ケタリシカ、目今ニ至リテ、保那巴ノ日國ニ於テ得タル權勢ヲ見テ、始テ害ノ自國ニ及ハンヿヲ恐レ魯ノ帝ト盟約ヲ結ヒ、日ノ所領ヨリ、佛人ヲ追ヒ出サント計リシカドモ竟ニ成功ナカリシナリ、

問其結果ハ、如何ナリシヤ、

答普人及ヒ其味方ハ、ジエナノ戰ニ大ニ敗走シ、保那巴ハ直ニ伯靈及ヒポッツダムヲ取リ、而

シテ此時掠奪物ノ中ニアリシ啡哩特大王ノ劍ヲ勝利ノ驗徵トシテ、巴勒ニ送リタリ、ジエナノ戦ニ、ブランスウ井ッキ侯ヘルジナンド、重傷ヲ被レリ、此侯ハジヨーヂ四世ノ妻ウエールス公ノ妃ノ父ナリ、

此戦ノ後、間モナク、リユーベックノ大都會烈ク襲ハレ普ノ將ブロッチエル、殆ト其全軍ヲ失ツテ止ムヿヲ得ズ降參セリ、

問薩沙尼及ヒ西法里ノ王國ノ興ルヿ如何ナルヤ、

荅保那巴、薩沙尼ノ主選者ヲ王國トナシ、其主選者、此戦ノ間ハ、保那巴ノ敵ナレトモ、コレニ王號ヲ與ヘタリ、然レトモ保那巴ハ、薩沙尼ト普トノ間ヲ隔離セント欲シ之ヲ為スニハ、薩沙尼ヲ特立ノ王國ニ建ツルノ外、別ニ良計ナシト思ヒシカハ、萊因河ノ盟約ニ新王ノ加ハルベキ約束ヲ為シテ、特立ノ王國ニ建テケリ

幾ント同時ニ又別ノ王國ヲ日國ノ内ニ建テラレタリ是ハ即チ西法里ノ王國ニシテ、ジエロム、ボナパルテ之ニ王トナリタリ、

問　チリストノ和約ハ、如何ナルヤ、

答　其後幾ナラズ魯帝ト佛帝トノ間ニ和睦成ル、之ヲ名ケテチリストノ和約ト云フ、時ニ普ノ所領大分ヲ普ヨリ取リテ薩沙尼及ヒ西法里ノ新王國ニ添ヘラレケリ、

第二十八編

チーロルノ擾亂及ヒ其他ノ事件

チリストノ和議ヨリボナパルテノ傾覆ニ至ル

令此ニチーロルカ巴華里亜（ハヽリヤ）王國ノ所轄ト為リシ時ヨリ國ニ起レル其不幸ナル傷マシキ事情ヲ記スヘシ、

問　何如ナル事情ニ由テチーロルノ擾亂ハ起リシヤ

答　新王マキシミリヤン、ジヨセッフハ大暴虐ノ

君ニシテ此王ノチーロル人ヲ待スルノ残忍ナリシヿハ前時阿尓麥帝カ瑞士（スウイツルランド）ノ國民ヲ遇スルカ如シ

此時ニ至ルマテチーロル人ハ概シテ自由安寧ノ民ニシテ質朴ナル風俗ニ於テ生活ス多クハ其本土ノ山林中ニ遊獵畜牧等ヲ為ルヲ以テ業トス」此人民前時ハ諸侯ノ管轄ヲ受ケタレトモ日耳曼帝ニ永久従屬トナレリ日耳曼帝ハインスブラックノ國會ニ於テ此人民ノ曽テ准許ヲ經タリシ所ノ古昔ノ律法并ニ特許ヲ盡ク保存スルヿヲ許セリ」然レトモ日耳曼帝ノ保存シタル諸權ハ新王ノ為メニ理ノ當否ヲ問ハス破碎セラレタリ新王ハ國會ヲ廢シ總テ寺観ヲ壓シ國民ニハ残レル生路ナキカ如キ苛酷ノ租税ヲ收メシメタリ

斯ル多般ノ残虐忽チ背叛ノ禍ヲ招キタリチーロル人ハ努力シテ巴華里亜（ハヽリヤ）人ヲ逐ヒ出サントセシヿ猶ウヰルリヤム、テルノ時瑞士人ノ

墺地利亜人ヲ逐フカ如シ假令ヒ其成功ハ同シキヿヲ得ス𪜈又テルニ比スヘキ将帥ハ乏シカラサリシ、

問ホヘルハ何人ナルヤ

答チーロルノ猛将ホヘルハ元來農夫ナリ一個ノ草莽ノ豪傑スペクベーケルト云ヘル僧ノ助カヲ得テ居民ヲ鼓舞シ兵ヲ起セリ之カ為メニ佛蘭西人及ヒ巴華里亜人ハ數度皆敗北ス」此騷亂ノ間都市及ヒ村落ノ不幸ナル人民ハ殘酷ノ毒ニ罹レリ」就中婦女童兒及ヒ戦ニ堪ヘサル老人ニ至テハ悽慘ノ形情殆ト寫スヘカラス

問此ノ勇将ノ結局ハ何如ナリシヤ

答遂ニ佛蘭西人及ヒ其黨與ハ國ヨリ逐ハレテホヘルハ政府ヲ掌握シテ其居所ヲインスプラックノ古諸侯ノ城寨ニ定ム曽テ君主ノ權ハ其城寨ヲ有セシ人ニ與フヘキ例ヲ設ケ置カレシカハホヘルハ此居處ノ主人ト為リシ時

國民ハ即時ニホヘルヲ國君ト看做セリ

問擾亂ハ何如ニシテ畢ハレルヤ

答此等ノ事既ニチーロルニ於テ起リシ間ニ墺地利亜帝ハ其自立并ニ其境土ヲ囬復セントテ徒ニ新計ヲ畫セリ而シテ已ムヿヲ得ス拿破侖ト別ノ條約ヲ結ヒ之ニ押印ス其盟約ニ由テ不幸ノチーロル人ヲ捨テヽ助ケサルヿヲ諾セリ是ニ於テ佛蘭西人及ヒ巴華理亜人ハ再ヒチーロルニ入ル此ニ由テ悽慘ナル居民ハ再ヒ兩國ノ殘暴ヲ被ルホヘルハ京城ヲ退キ山ニ據リ力ノ竭クルニ至ルマテハ自ラ防戦ス然レトモ遂ニ囚虜ト為テ死刑ニ處セラレ反逆人ナリトシテ射殺サレヌ得勝者ハ自國自由ノ權ヲ守護スヘキ氣魄ヲ有スル豪傑ヲ擅ニ誣ヒテ反逆ノ名ヲ負ハシムルヿヲ得タルカユヘニ斯ク名ケラレタルナリ

問此ノ時代ニ佛國帝及ヒ墺地利亜帝ノ間ニ結ハレタル契約ハ何如ナリシヤ

答此時代ニ起リシ極メテ非常ナル一事件ハ墺地利亞帝ノ女アルチジューチヱスマリヤルイサ保那巴（ボナハルテ）ト婚姻ヲ結ヒシヿナリ「保那巴ハ此契約ヲ結ハンカ為メニ其先妻ジヨセヒンヲ離縁シタリフランシス并ニ其女ハ此契約ヲ欣然允諾シテ自國至大ノ讎敵ト交誼并ニ親屬ノ至密ナル契ヲ結フニ至テ毫釐モ厭フ景色ハ見ヘサリシ

此ニ至テ日耳曼及ヒ普魯士ハ全ク佛蘭西帝ノ專權政府ノ制御ヲ受ケタリ

問何ノ故ニ俄羅斯帝ハ佛蘭西ニ抗シテ戦ヲ唱ヘルヤ

答普魯士王ハ已ムヿヲ得スシテ莱因河ノ同盟ニ合同シ此同盟ニ屬スル他國ノ如クニ藉ニ従テ徴シタル兵丁若干ヲ保那巴ニ供給ス而シテ悉ク其海港ヲ閉チテ不列顛ノ商舩ヲ拒ムコレハ又總體北方ノ海港ニ置カレシ所ノ禁令ナリ大不列顛（グレートブリテイン）ノ商人ハ其舩ヲ波羅的（バルチツク）

海岸ノ都市ニ遣ルヿ能ハサルニ至ル特リ不列顛ノ貿易ヲ損スル耳ナラス又他國ノ通商ニ於テ重大ノ禍害ナリ」一千八百十二年ニ至テ俄羅斯帝カ佛蘭西ニ抗シテ戦ヲ唱ヘシハ此由縁ヲ以テナリ

問佛軍ノ新兵ヲ募ラルヽハ何如ナリシヤ

答日耳曼ノ各部ハ再ヒ莱因河同盟ノ諸國ヲ經歴セル佛蘭西軍ノ進行ニ攪擾セラレタリ是」同盟諸侯ヲ要シテ盟約ノ兵丁ヲ給セシメ其軍勢ヲ増サシガ為ナリ」此ニ於テ農夫ハ迫脅セラレテ自己小廬ノ安樂ヲ去テ軍陣ノ艱難ニ就キ平安ノ牧場及ヒ葡萄園ヲ棄テヽ畏懼スヘキ戦場ニ趨ケリ

此遠征ハ保那巴ノ滅亡ナリ然レトモ保那巴ハ未タ曾テ此俄羅斯ノ役ニ起セシカ如キ大軍ニハ将タラザリシ」佛蘭西日耳曼普魯士ノ兵會合シテ大隊トナリ一方ヲ指シテ進行シ一千八百十二年五月巴理ヲ發セシ所ノ女皇

ヲ携ヘシ元帥ノ來着ヲ待テリ元帥及ヒ女皇ハ日耳曼ノ數諸侯ヲ訪フウルテムブルク及ヒ薩沙尼ノ主ハ盛宴ヲ設ケテ之ヲ饗應セリ然ル後ニドレスデンニ到リ其所ニハ墺地利亞帝并ニ女皇之ヲ迎接シタリ保那巴ハドレステンニ於テ宴席ニ數日ヲ送リテ其軍ノ號令ヲ為ントテビスチユラヲ指シテ進發スマリヤ、ルーサハ巴理ニ歸リ其二親ハ維也納ニ歸ル

歐羅巴全洲ハ佛蘭西俄羅斯兩國間ノ戰ニ震動セリ然レトモ斯ノ如キ諸國ノ屈伏セル强國ノ全ク傾覆ニ至ラントハ誰モ先見スル者ナカリシ

問保那巴ハ何時ニモスコー府ニ入リシヤ

答保那巴并ニ其軍ハ一千八百十二年九月ニモスコーニ達シテ其府ヲ取ル其居民ハ保那巴ノ來リ近ツクヲ聞テ既ニ悉ク逃遁セリ

問佛軍ノ命數何如ナリシヤ

荅帝モスコー府ニ留テ方ニ來リシ冬ヲ過サンヿヲ計レリ然レトモ此計ハ俄羅斯人ニ破ラレタリ偖數多ノ俄羅斯人ハ府ノ諸方ニ潜ミ夜半ニ至リ所々ニ火ヲ放テ佛人ヲ寒キ荒野ニ逐ヒ出タセリ、是ニ於テ佛人ハ食物モ又蔽障モ得ルヿ能ハス」凡ソ保那巴カ率ヒ來ル多人數大半ハ斯ル寒烈ノ氣候ニ應スル衣服ノ備乏シキカ為メニ悩ムベシ地方一面ヲ蓋ヒタル積雪ノ中ニ凍死セリ

問此ノ不利ノ遠征ニ隨テ何如ナル事情起レルヤ

荅保那巴ハ此悽惨ノ光景ヲ棄テ、新ニ兵ヲ徴シテ再擧センヿヲ願ヒ單行シテ巴理ニ歸ル然レトモ其精兵ヲ盡ク失亡シタルヿハ挽回スヘカラス且其威名モ之ニ由テ大ニ衰ヘ」先ニ畏懼シテ保那巴ニ屈服シタリシ者ハ今ニ至テハ唯其覆滅ノ速カナランヿヲ祈レリ此等ノ中ニ就テ普魯士王ハ率先ノ第一ナリ」

墺地利亜帝ハ近キ親屬ナリト雖𪜈亦決然保耶巳ノ敵ニ合同セリ而シテ萊因河同盟ノ諸侯ハ保耶巳ノ自ラ立テタル王ニ至ルマテ皆逐次ニ其傾覆ノ禍ヲ避ケテ更ニ彼レヲ助クル者ナシ

俄羅斯人及ヒ瑞典（スウエーデン）人英吉利人ハ諸國ト兵ヲ合併ス假令ヒ佛蘭西帝ハ其勢ヲ囬復セントテ力ヲ奮フト雖𪜈敵ハ衆多ニシテ毫釐モ利ヲ得ル機ハ見ヘサリシ

問何所ニ於テ何時ニ保耶巳ノ命運ヲ決定セシ所ノ接戦アリシヤ且此ノ際ノ首魁ノ黨ハ誰ナリヤ

答數度ノ接戦起レトモ勝敗ヲ決セシ至大ノ戦ハ一千八百十三年十月十八日リープシックノ近傍ニ起リシ戦ナリ

都府ノ居民ハ寺觀ノ塔ニ登リ壁上ニ坐シテ事ノ結局ヲ注目ス而シテ佛蘭西人カ戦場ヨリ敗走シニ彼ノ勝利ヲ得タル三黨墺地利亜

ノフランシス普魯士ノフレテリツク、ウヰルリヤム瑞典ノ太子ベルナドツテカ都府ノ大巷ニ會合スルヲ看ル時ハ此等ノ顯名ナル人ノ悉ク此戦ニ與リタルヲ以テ居民ノ喜悦ハ大ナリ

問佛國廢帝ノ結末ハ何如ナリシヤ

荅保那巴ハ此敗軍ノ後幾ハクナクシテ己ムヿヲ得ス佛蘭西ノ帝位ヲ去テ得勝者ヨリ地中海中ノ小島ヱルバニ君主タルノ權ヲ得テ其所ニ退居シ佛蘭西ノ帝位ハルイス十八世ニ復セリ

問廢帝ノ妻ハ其流謫ヲ共ニセシヤ

荅マリヤ、ルイサハ其幼子ト共ニ維也納ニ在リシ父ノ朝廷ニ送ラル然レトモ余ハ謂ヘラク若シ此女ニ其進退ヲ自己ノ意ニ任スルヿヲ許セシナラハ寧ロ其夫ノ衰運ヲ共ニスルヿヲ願ヒシナラン

第二十九編

歐羅巴ノ鎮静

一千八百十四年ヨリ一千八百二十年ニ至ル

此時ニ當テ拿破崙カ斯クノ如クニ全然攪亂シタル歐羅巴ノ事務ヲ整齊スルヿハ拿破崙ノ帝國ヲ覆シタル諸國ノ任ニアリ

問歐羅巴ノ事務ヲ定著スルニ近ツケル初歩ハ何ゾ

答此事務ヲ齊整スルカ為メニ首魁ノ國主及ヒ諸侯若クハ其代理者ノ集會ヲ維也納ニ立テ共ニ此旨ヲ議シ以テ全洲總體并ニ永遠ノ平安ヲ保護スルニ最モ宜シキ制度ヲ作ルヘキヿ一決セリ

問何時ニ亞諾威尓ハ何ノ故ヲ以テ王國ト建テラレシヤ

答曽テジェロム、ボナパルテウェストファリヤノ王ニ立テラレシ時ニ其國ニ合併セラレシ亞諾威尓（ハノフル）ノ主選國ハ正ニ此集會ノ起レル前ニ至テ英吉利代理公子ノ願ニ依テ王國ニ立テラレタリ代理公子ハ日耳曼ニ於テ之ヲウル

テムブルグ幷ニ巴華里亜ノ王ト同等ノ位ニ置カレシヿヲ領ヒシナリ諸國ノ君主ハ保那巴ノ曽テ此等ニ與ヘタル王ノ稱號ヲ保存セリ何トナレハ則チ今ニ至テハ日耳曼帝ノ位ハ世襲トナリタル故ヲ以テ主選者ノ稱號ニ屬セル官爵ナケレハナリ

問亜諾威尓ノ始王ハ誰人ナリシヤ

答此故ヲ以テジヨルジ三世ハ亜諾威尓ノ始王ナリ

問何故ニ亜諾威尓ハ當時ブリテンノ王位ト分タレシヤ

答然レ𪜈其王國ハサリツク法（サリツク法ハ男ノミ王位ヲ嗣クヿヲ得ル仏蘭西ノ國憲ナリ）ノ故ヲ以テ女子ノ相嗣クヿヲ得サルカ為メニカムベルランド公苐二ノ男子ナルヲ以テ維廉（ウヰルリヤム）四世ノ死スルニ當テ亜諾威尓ノ王ト為レリ

問維也納ノ集會ハ何時會セシヤ

答一千八百十四年十一月集會維也納ニ在リ

問此集會ハ誰人カ作セルヤ

答此集會ハ俄羅斯墺地利亜ノ帝嗹國巴華里亜ウルテムブルグノ王其外日耳曼ノ數諸侯出會シ外國ノ宰相英吉利王及ヒ其他自ラ會セサル諸帝王ノ代理トシテ出會ス

問日耳曼國ノ分割ニ何如ナル緊要ノ變革アリシヤ

答此集會ハ商議ノ為ニ數月ノ間歇マス其時日耳曼國ヲ新ニ分割スルノ議決シテ小國ハ大國ニ合併セラル此ニ因テ主權ノ數ハ三百ヨリ三十八ニ減シタリ余以為ラク保那巴ノ時ニ先ツテ日耳曼ニ於テ帝國ニ從屬スル政府ハ其數總テ三百ニ下ラザリシ其國ノ歷史并ニ地理志ノ錯雜解シ難キハ是ヲ以テノ故ナリ

問何レカ首魁ノ君主ナルヤ而メ其位スル次序ハ何如且四箇ノ自主府ヲ指シ示セ

答此ニ至テ三十八主權アリ其主魁ハ即チ墺

地利亜帝國次ニ普魯士王國然ル後ニ亜諾威尓及ヒ薩沙尼ウルテムブルグ巴華里亜等ノ王國ナリ」其餘ハ諸大公國并ニ各自ノ律法ヲ以テ治メタル合衆政治ノ小國ナルハムブルグ及ビフランクホールトブレメンリユベックノ四自主府ナリ

問小國ハ大國ニ何如ナル關係アリシヤ

答其他ノ諸國ハ各前ニ記セル大公國自主府ノ一ニ從屬シテ其政府ノ立テタル律法ヲ奉ス

問同盟君主ノ基業ハ何如ニシテ增サレシヤ

答墺地利亜帝ハ悉ク其前時ノ權勢ト境土トヲ回復ス俄羅斯帝ハ波蘭國ノ大半ヲ收メテ其國ノ王號ヲ自ラ擅ニス普魯士王ノ管轄ハ殊ニ廣大トナリタリ其緣由ハ薩沙尼ノ老王曽テ保耶巴ニ信義ヲ盡シテ同黨ノ君主ニ抗シカノ及フ間ハ之ヲ扶持シタルニ因テ已ムヿヲ得ス其王國一半餘ヲ割キタルヲ以テナ

り
維也納府ハ集會ノ時ニ當テハ外國人充滿シ
而シテ帝其顯榮ノ賓客ヲ敬待スル進席ヲ設
ケタルカ為メニ殊ニ繁華ナリ」維也納ハ壁及ヒ
乾溝ヲ以テ圍ミタル華美ナル府ナリ府外ニ
郊アリテ其所ニハ花園并ニ道路萬種ノ鋪肆エ
場貴介ノ邸苐會社數多アリ」此郊ハ廣濶ニシ
テ府ノ如クニ長壁ヲ以テ圍マル是ハ土耳其
人ノ侵冦ヲ防グカ為メニ一千七百四年ニ築

キタル者ナリ然レトモ其壁半ハ佛人ニ壊ラ
レタリ此ニ依テ居民ハ又其餘ヲ毀タレンヿ
ヲ度リテ集會ノ時ニ至テ此壁ノ造營ヲ起セ
リ」維也納府ハ熱鬧繁華ノ景ヲナセリ然ルニ
保那巴ノ不幸ナル配匹マリヤ、ルイサハ其稚
子ト共ニ府ノ近傍ナルスチェンブリユンノ宮
殿ニ閑居ス」マリヤ、ルイサハ其夫ノ傾覆ヲ祝
スル宴席ニ與カルヿヲ好マス未タ曽テ數多
帝王ノ會セル華美ノ殿堂中ニ見ヘサリシ

問何如ナル不意ノ事情ヨリ集會ノ卒爾ニ散スルヿヲ致セシヤ

答集會ノ事務イマタ畢ラサリシニ保那巴ヱルバ島ヲ逃出シテ巴理ニ在リテ佛蘭西帝ノ尊號威權ヲ再ヒ擅ニ握リシ消息維也納ニ来著セリ此意外ナル報告ヲ聞テ皆絶倒ス然レトモ著實ニ之ヲ慮ルトキハ笑フヘキ事ニハアラサルナリ何トナレハ則チ佛蘭西ノ軍人ハ皆保那巴ノ歸著ヲ迎ヘテ喜ヒ而シテ保那巴ハ戦陣ニ用ユルニ足レル强兵ニ再ヒ將帥タルニ因テ果然人命ノ損害ヲ招クヿ愈多ケレハナリ

是ニ於テ更ニ軍備ヲ整フルノ外ハ他ニ為スヘキ事ナシ

問保那巴ノ目的ハ何如ニシテ破ラレシヤ

答此ニ依テ遠ニ集會ヲ散シ連合ノ軍集リテブラッセルニアリテウエルリングトン公ノ號令ヲ奉セル英吉利人ニ合併シテラートルルーノ

原ニ於テ佛人ヲ破リ結局ノ大捷ヲ得タリ其後保那巴ハ自ラ英吉利人ニ降リテ戦争遂ニ平定ス

問何事カ之ニ従テ起レルヤ

答是ニ於テ連合ノ帝王ハ日耳曼諸國ノ鎮静ニ關セル商議ヲ再興シ顯然人民ノ為メニ自由ノ權ヲ保全スルカ如キ政府ノ體裁ヲ悉ク諸國中ニ設立スル志願ナリト唱ヘリ

問何如ナル封建制度ノ舊習保那巴ニ廢セラレシヤ

答保那巴既ニ日耳曼ノ諸部ニ尚存シタル古代封建制度ノ風習數條ヲ廢セリ就中貴族ノ磨及ヒ麵包爐ヲ有スルノ權ヲ廢セリ是迄ハ農夫其穀物ヲ粉ニ磨キ其麵包ヲ焼カントスル時ハ已ムヿヲ得スシテ其所ニ携ヘ其粉并ニ麵包若干ノ部分ヲ貴族エノ税トシテ除キ去ラレシ風習アリシナリ

貴族ノ磨及ヒ麵包爐ヲ廢スルヿハ農夫ニハ

大惠ナリ然レトモ唯奴隷ノ一種ニ交換シタルノミ故ニ保耶巳統治ノ間ハ農夫ハ常時兵丁ニ徵サレシナリ

問日耳曼人ノ後來自由ノ權ヲ得ルハ何如ナリシヤ

答然レトモ余カ將ニ論セントセシ事ハ此時ニ當テ日耳曼及ヒ以太利ノ諸國ニ新政體ヲ設ケントスル所ノ諸帝及ヒ其他ノ諸大君主强ヒテ諸王并ニ諸侯ヲ要シ各管轄ノ境土ニ於テ代理者ノ制度ヲ設立スヘキ約ヲ結ヒシ事ナリ便チ諸侯ハ議事院ノ意ト合同セスシテ全然自己ノ意ニ隨テ管治スヘカラス議事院ノ議員ハ人民ヨリ選擧セラルヘキヲ謂フナリ而シテ各諸侯ハ其管轄ニ就カサル前ニ迫ラレテ此制度ニ應允セリ

問此等ノ方畧ハ施サレシヤ

答然レトモ約ヲ立ツルハ一事ニシテ其約ヲ保守スルハ又一事ナリ諸侯其自國ニ於テ改

革ヲ起ス者アルニ至リシ迄ニハ久シキ年月ヲ經タリ然リト雖モ墺地利亞帝及ヒ普魯士王已ニ自ラ其臣民ニ政道自由ノ權ヲ與フルヿ甚タ遲怠ニシテ其所行尚ホ舊ニ依テ專横君主ナレハ亦驚クニ足ラサルナリ

問 日耳曼ニ於テ政府ノ體裁ハ何如ソヤ

荅 假令ヒ日耳曼ノ各王國幷ニ各侯國ニ自己ノ分レタル政府アリト雖モフランシクホールトニ於テ惣國會アリ其議員ハ各國ヨリ遣サル總督ハ墺地利亞ノ全權大使ナリ」此國會ニ立テラレタル律法ハ日耳曼全國ノ用フル所タリ然ルニ各自國ノ立法會議ニ於テ立テラレタル律法ハ互ニ關渉スルヿナシ

問 神聖會盟ハ何事ナリシヤ

荅 保那巴傾覆ノ後幾ナラスシテ墺地利亞及ヒ俄羅斯帝及ヒ普魯士王ノ間ニ神聖會盟ト名ケタル盟約ヲ立テ陽ニ耶蘇教ノ大綱ニ從テ政治ヲ為サンカ為メニ互ニ相助クル旨ヲ

唱ヘリ然レトモ此會合ノ擧動決シテ公聞ニ漏レサル所ノ密旨ハ擅政ヲ扶持シカノ及フ所ハ人民ノ中ニ生長スル自由ノ氣魄ヲ抑フルニアリシト云フ

第三十編

日耳曼ノ事

（一千八百二十年ヨリ一千八百四十一年ニ至ル）

ジヨルジ四世一千八百二十一年ニ亜諾威尓王國ヲ巡行シ威儀ヲ盛ニシテ其首府ニ入ル庶民ハ稱讃喚呼シテ皆其家ヲ装飾シ十日ノ間專ラ種々ノ飲宴ヲ務トシテ其喜悦ヲ表セリ

問誰人カジヨルジ四世ニ代テ政府ノ事ヲ行ヒシヤ

荅一千八百十六年以来カムブリツジ公亜諾威尓ノ知事ノ事ヲ行ヒ數多ノ改革ヲ為セリ

問カムブリツジ公ハ何如ナル改革ヲ為セルヤ

荅其改革ノ中ニ拷訊ヲ廢スル一條アリ即チ

是迄用ヒラレタルモノナリ而シテ收税ノ制度ニ一條ノ改革アリ之ニ因テ貴族已ム事ヲ得ス下劣ノ種族ト同ク各自其本分ヲ納ムルニ至レリ

問一千八百三十年ニ何事カ起レルヤ

答斯ル有益ノ變革アリト雖𪜈人民ハ尚意ニ滿タスシテ一千八百三十年騷亂ノ佛國ニ起レル時ニ亞諾威尓人佛人ニ效フテ擾亂ヲ起シ政府ニ抗ス時ニゴツチンジエンノ大學校ノ書生ハ此百姓騷擾ニハ殊ニ奮發特出セリ然レトモ皆遂ニ兵力ヲ以テ壓服セラレタリ

問當時ノ亞諾威尓國ノ制度改革セラル、ハ何如ナリシヤ

答此ニ於テ英吉利王維廉（ウヰルレム）四世亞諾威尓ノ民ノ為メニ新國制度ヲ設ク即チ英國ノ議事院ノ如ク兩院ヲ以テ成立シタル議事院ヲ立テリ上院ハ王族ノ公子貴族及ヒ特出シタル官職アリテ王ヨリ一生ノ間選擧セラレタル二

三華ヲ以テ成ル而シテ下院ハ都府并ニ地主及ヒ農戸ヨリ選ミタル代理者及ヒローマンカトリックニ属セル宗教ノ代理者ヲ以テ成ル此ローマン、カトリック宗ハ亜諾威尓管内ニハ夥シ然リト雖𪜈定立ノ宗教ハプロテスタント宗ナリ代理者ハ六年ノ間選ハレ而シテ毎年出會スルナリ

問維廉四世ノ死ニ當テ誰人カ亜諾威尓ノ王位ヲ繼ケルヤ

荅維廉四世一千八百三十七年ニ死ス元来亜諾威尓ノ王位ハ男子ヲ限ラレタレハ英吉利ノ女王ヲ以テ繼クヿ能ハス故ニ王位ハ前王ノ長兄カムベルランド公ニ帰セリ此公即時ニ其新管轄ヲ有シイルネスト、ヲーガスチュス一世ト稱ス

問政體ニ何如ナル變化有シヤ

荅此王ハ先ツ兵權ヲ握リ然ル後ニ專横ヲ極メテ政體ヲ變革シ維廉四世ノ行ハレシ新制

度以前ノ舊體裁ニ復ス乃チ臣民ヲシテ大ニ不平ヲ生セシムル所ノ變革ナリ然レトモ終ニ一千八百四十八年ニ至テ大變起リテ自由ノ國制此臣民ニ復歸セリ

問ブランスウヰック公國ノ亜諾威尓王國ト連結セラルハ何如ナリシヤ

答次ニ注意ヲ要スル國ハブランスウヰックノ公國ナリ其國ハ亜諾威爾ノ王國ト殊ニ親シク連接メ両國ノ君主ハ余カ前ニ説キ明カセシカ如ク其原由ヲ推ス時ハ同源ヨリ出ツ此氏族両支ノ所有ハブランスウヰック、ヲルヘンボッテルトブランスウヰック、リュ子ンバルグトニ辨別セラレ而シテ當時ノ亜諾威爾王國ハリュ子ンバルグ領ノ一部ナルカ故ニ其家ノ君主ハ即チ亜諾威爾ノ主選者ニシテ英吉利王ト為レリ然ルニヲルヘンボッテル公系ノ君主ハ留リテ尚ブランスウヰック公ノ稱號ヲ存セリ

ブランスウヰツク公ヘルジナントハ其國拿破侖ニ取ラレテウヱストハリヤノ新王國ニ合併セラルヽ時ジエナノ交戦ニ物故セリ然ルニ其子維廉咈哩特ハ其本國ヨリ流謫セラレテ終ニ一千八百十四年ノ平和ニ至テ其祖先ノ遺業ニ復スルヿヲ得タリ然レトモ不幸ニシテ咈哩特ハ永ク其業ヲ享ケサリシ

問ブランスウヰツクノ前公ハ何如ニシテ生命ヲ墜セシヤ

荅保耶巴エルバ島ヨリ還レル時ニ咈哩特ハ同盟ノ軍ニ合シテヲートルルー交戦ノ前日ニ起リシ一擧ニ勇ミテ戰没ス

問其承繼者ハ誰人ナルヤ而シテ何故ニ廢セラレシヤ

荅其子查理斯（チヤールス）幼稚ナレハ其叔父英吉利ノ代理公子之ヲ看護シ彼ノ成人ニ至ル迄公國ノ事務ヲ掌トレリ查理斯ハ成人ニ至テ自ラ事ヲ執レトモ其政治ノ悪キニ由テ騷亂作リ公

宮ハ灰燼トナル公已ムヿヲ得スシテ英吉利ニ脱出セリ

問此公國ハ誰人ニ賜ハリシヤ

荅其弟維廉ハ更ニ節制アル公子ナレハ困苦シテ此擾亂ヲ鎮静ス翌年公國ノ主權ハ英吉利王并ニ日耳曼國會ノ許准ニ依テ此公子ニ賜ハリタリ

問廢公ハ何如ナル擧動ヲ為セシヤ而シテ歸結ハ何如ナリシヤ

荅査理斯公特ニ其弟ヲ慰セシカ為メニ一千八百三十二年巳理ニ放テ盟約ヲ結ヒ亂ヲ作サンヿヲ計ル然レトモ之ニ由テ英吉利ヲ追放セラル然ルニ維廉公ハ安寧ニフランスウヰツクニ於テ其位ヲ保テリ

此國ノ首府ハヘンリー、ゼ、ライヨンフ時ニ當テハ嘗ブランスウヰツクノ名ヲ存セル田園ナリシガ其大君此ヲ盛大ニナシ而シテ第十三世（此ニ云フ世トハ百年ヲ一世ト定メテ耶蘇降誕ヨリ數フルナリ）ニ至テハ

ンス都府ノ一トナレリ（此ノハンス都府トイヘルハ第十二世ノ頃ニ通商防禦ノ為メニ互ニ相交結セシ日耳曼國若干ノ互市都會ヲ謂フナリ）今ニ至テハ極メテ華美ナル都會ニシテ公宮ノ外ニ許多ノ公館アリ都府ノ傍ニリチモンドト名ケタル公ノ別莊アリテ其中ニ英吉利ニ在リシリチモンド園ヲ模セル苑囿アリ

問ブランスウヰツクノ製造物ハ何ソヤ

答其製造物ハ絨麻布鉄器磁器色紙及ヒ其他各種ノ貨物アリテ皆精巧ヲ盡セリ」毎年會セルニ二度ノ大市アリ而シテ此府ハ多ク超群ノ救貧法ヲ得タリ

薩沙尼ハ曽テ日耳曼諸國ノ中ニテ至大ナリシガ今ニ至テハ極ノテ狹小ノ國ナリ甲利泰甫ノ世并ニ其後久シク日耳曼國一半餘ハ薩沙尼ノ名ヲ有セリ遂ニ苐十五世ノ末ニ至テ國ハ大部落十區ニ分タル此部落ヲ名ケテシルクルト云フ其期ヨリシテ後ハ薩沙尼ノ總名ヲ有シタル廣大ノ境土ハアッポル、サキソニ

一及ヒローウェル、サキソニー、ウェストハリヤノ三シルクルニ分タル」保那巴日耳曼帝國ヲ解キ莱因河同盟ヲ立テシ時ニシルクルヲ廢シテ自己ニ立ツル所ノ新王國ノ境界ヲ劃定セリ」薩沙尼ハ此等ノ中ノ一ニシテ王ノ稱ハ主選者フレテリツキ、ヲーグスチユスニ賜リタリ是レ一千八百六年シエナ交戰ノ後ニ咷哩特莱因河同盟ニ合セシ時ナリ

問薩沙尼王ノ其管轄地方ノ一大部ヲ失ナヘルハ何如ナリシヤ

答保那巴ノ俄羅斯ニ於テ艱苦ナル遠征ノ後ニ薩沙尼王ハ保那巴ヲ助ケテ連合ノ諸帝王ニ抗シ尚ホ戰テ歇マス遂ニ生擒セラレテ十二月間囚虜トナリ其管轄ノ境土ハ當時俄羅斯及ヒ普魯士ノ官吏ニ管理セラレタリ」維也納ノ集會ニ其王國ノ一半ヲ奪ヒテ之ヲ普魯士ニ加增セシハ曩ニ保那巴ヲ助ケタルノ故ヲ以テナリ此分割ニ由テ薩沙尼王ハ貴重ノ

製塩場及ヒ樹林禾田ヲ失ヘリ然レトモ國ノ最上製造ノ部ハ殘サレタリ是ヨリシテ王ハ生涯無益ナル制度設立ニ專ラ心思ヲ盡セリ

問薩沙尼王ハ何如ナル舊習ヲ廢セシヤ

答一千八百十八年ニ王一條ノ舊例ヲ廢セリ是レ其舊例ニ依レハジユー（イスレーライトノ後裔ナリ）ノ互市ハレーブレツクノ一部ニ限ラレシヲ以テナリ

問薩沙尼ノ農民ノ枉屈セラルヽハ何如ナリシヤ

答然レトモ本土ノ農夫ハ尚税ヲ以テ困メラレ而シテ總テ都府ニ行ハルヽ貿易ニ與ルヿヲ許サレス皆貧窶ニ陷ルニ至レリ

問何如ナル變革薩沙尼國ニ生セシヤ

答フレデリツク、ヲーギユスチユス一千八百二十七年ニ年老テ死ス而シテ其弟アントニー、テヲドル之ヲ繼ク此王モ又極メテ老人ナレハ政府ノ事務ハ其甥ニ委任ス即チ現今ノ薩沙尼

王ナリ老王アントニーハ一千八百三十六年ニ死セリ

問　何時前巴華利亜王ハ位ニ登リシヤ

荅　巴華利亜ノ前王ルイス一千八百二十四年ニ其父ノ位ヲ継キ其子ラヅ一千八百三十二年ニグリース王ト為レリ

問　巴華利亜ノルイスハ何如ナル盛大ノ土木ヲ興セシヤ

荅　巴華利亜ノルイスハ日耳曼國内ニ大ナル土木ヲ興シタルニ由テ名ヲ著ハス其中ニリユドウヰグス溝并ニラスチボンノ傍ナル貴重ノ宮室バルハルラアリ其宮室ノ中ニハ著述又ハ功業ニ因テ國ノ光耀ト為リタル有名ノ日耳曼人ノ偶像ヲ置カレタリ古代ニハバルハルラト云ヘルハ假リ設ケタルヲヂン（神ノ名ナリ）ノ宮殿ノ名ナリ其神ヲ敬スル者ノ信スル言ニ據レハ死シタル英雄ノ霊现其宮殿ニ集會シテ宴ヲ設クルト云フ

此ノ溝一千八百三十六年ニ落成シテ莱因河トダニューブ河ト交通ス是ニ於テ巴華利亜及ヒ墺地利亜恒加利ワルラチヤヲ經テ直チニ日耳曼洋ト黒海ノ間ニ通路ヲ開ケリ此路ニ従テ小量ノ貨物ヲ載セタル船ハ倫敦府ヨリコンスタンチノーブルニ通スヘシ」此工事ハ甲利泰甫ノ時ヨリ既ニ人ノ思慮セシ所ナリシカ甲利泰甫ハ始メテ工夫ヲ立テタル人ナリ蓋シ良キ工人ナキカ為メニ施行スルヿ能ハサリシナリ

ウルテムブルグノ王國ハ農業ヲ主トスルノ國ニシテ製造ヲ旨トスル國ニアラス谷ニハ菓園充満シ山ニハ葡萄園充満ス且ツ穀物ハ蕃茂シ雞及ヒ牛羊ハ國内悉ク牧養セサル所ナシ」甚タ専横ナリシウルテムブルグノ始王ハ保那巴傾覆ノ後幾ナラスシテ死シタリ此王擅政ニ偏シ曽テ集會ニ於テ其管内ニ會議政體ヲ立テンヿヲ約シタリシニ遂ニ之ヲ施

行セサルニ由テ國民ノ疾苦小ナラス

問現今ノウルテムブルグ王ハ誰人ナルヤ

答現今ノ王ナル其子維廉ハ英吉利ノ女王ノ従弟ナリ聰明寛大ナル君ナレハ國民ノ意ニ應シテ政體ヲ變革シウルテムブルグニ次序正シキ議事院ヲ設ケリ

ウエストハリヤハ既ニ獨立ノ王國ニアラス普魯士王ニ屬ス」恒加利及ヒ波希米亜（ホヘミヤ）トランシルバニヤハ墺地利亜管轄ノ一部ヲ成ス而シテ近頃ノ擾亂ニ至ルマテハヘルジナント帝ノ所轄ナリシ此帝ハ其父フランシス二世ノ死ニ因テ帝位ニ登レリ時ニ一千八百三十五年ナリ

問日耳曼諸國ノ數ハ幾何ナルヤ

答日耳曼大國ノ數ハ大約二十六國ナリ然レトモ更ニ小ナル公國及ヒ侯國數多アリテ總計三十八國ニ及フ毎國一君主アリテ之ヲ管治ス

問諸國ノ帝國ト相關スル際ハ何如ナリシヤ

荅帝ヲ以テ總君主ノ首ト做ス然レトモ帝ハ此等ノ君主ヲ統制スル完全ノ威權ヲ有セス皆各自ニ自由獨立君主ノ權ヲ享ク

問日耳曼盟約ハ何ソヤ

荅總體ノ君主ヲ聯結セル者ハフランクホールトニ於ケル總國會ナリ總君主ノ代理者其國會ニ會同シ全國ノ利益ヲ目的トシテ律法ヲ論議制定ス之ヲ名ケテ日耳曼同盟ト云フ然レトモ代理者ハ君主ノ代任ニシテ人民ノ代任ニアラサルカ為メニ一千八百四十八年ノ大變ニ此會同ハ廢セラレテ通國議事院ヲ作ル後ニ詳カナリ

問帝國所轄境土ノ廣狹ハ何如ナルヤ

荅帝ノ管轄ハ甚タ廣大ニシテ恒加利及ヒ波希米亞波蘭ノ一部以太利國内ノ數國ヲ併セテ俄羅斯ヨリ以太利ニ至ル迄之ヲ統フ以太利國内所轄ノ中ニ於テ米蘭ハ其首ナリ

日耳曼史畧巻八終

平田宗敬　校

官版御書籍發兌

芝大神宮前　山中市兵衛
日本橋通二丁目　稲田佐兵衛
横山町一丁目　出雲寺萬次郎